



国立国会図書館関西館 第19回小展示

おそれと祈り

—まじないのかたち—

展示資料解説

開催期間

2月18日(木)～3月15日(火)



皆さん、はじめまして。

わたしはこの展示を皆さんにご紹介するために、仄暗い関西館の書庫から出てきました¹。名前は……ここでは控えておきましょう。皆さん、きっと驚かれるでしょうから。この冊子を最後まで読んでいただければ、その時にはもう驚かずに私の名前を聞いていただけることでしょう。

さて、今回ご紹介する資料は「おそれと祈りーまじないのかたち」という題の下に選ばれたものです。どうしてこの題になったのかを、お話ししましょう。私の友人の美輪明宏さん²が先日、紙面でつぎのようなことを仰っていました。

現代人はもっと謙虚になって畏れを知らなければならぬ。

畏れを知れば身を律することを知り、いじめなどもなくなるだろう。

たしかに、おそれは人間の日常からますます遠ざかっているように見えます。天気に左右されずに農作物が収穫できたり、小さく生まれた嬰児も医療の力で大きく育てられたり。とてもすばらしいことです。

けれど、一方で地震、津波、噴火などの災害は相変わらず人間を脅かしていますし、医療の及ばない難病も多くあります。人知を超えたことはやっぱり起きます。それが起きたとき、持てる技術を結集して事に当たることはもちろん大事です。

と同時に、その場で傷ついている人、その場に立ちすくんでいる人の魂（心）を慰めることも大切で、それは必ずしも技術の専門分野とは限らない、むしろ古来、人間の祖先が培ってきたおそれや祈りの心が力を発揮する番ではないか、と。

その知恵を探れたら、そう思ってこの題が選ばれました。

絵馬、お守り・お札、人形、呪文・神託、生贊……人々は何をおそれ、どんな祈りをこめてきたのか、人間の素朴な信仰に根ざした風習や伝説を見つめます。どうぞご覧ください。

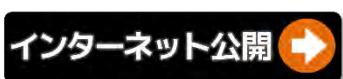
何か一つでも皆さんのお力になれましたら本望です。

¹ この画が載っている資料は普段、確かに書庫で保管していますが、実際の書庫は仄暗くありません。書庫に働く人のため、必要な照明を点けています。この資料、今回出展してはいますが、別のページを開いています（資料No.33）。なお、この冊子で画に語らしめているところの責は全て筆者（関西館展示小委員）にありますが、この画の喚起したイメージについて画家に対し大いなる謝意と敬意を表します。

² 本当に友人関係にあるのか、調べていないので分かりません。紙面とは、平成28年2月6日（土）付け読売新聞（朝刊）の「時代の証言者」欄です。

この展示資料解説について

- 資料を展示の順番にしたがって掲載しています。書誌情報は資料番号 タイトル 卷号 / 編著者名等（出版社, 出版年）の順に記載しています。【】内は当館の請求記号を表します。
- ガラスケースに展示している資料は一部を除き、デジタル化が済んだ資料の原本です。デジタル化した資料はすべて、館内の端末で、国立国会図書館デジタルコレクション (<http://dl.ndl.go.jp/>) からご覧いただけます。そのような資料には、請求記号の後に次のアイコンを付しました。



資料の電子画像をインターネット上で見ることが可能な資料です。



国立国会図書館の館内および、「デジタル化資料送信サービス」の「送信先機関」内でのみご覧いただける資料です。

「デジタル化資料送信サービス」については、
http://dl.ndl.go.jp/ja/about_soshin.html
でご紹介しています。



国立国会図書館の館内でのみ閲覧可能な資料です。

目次

絵馬	- 2 -
お守り・お札	- 6 -
人形	- 10 -
呪文・神託・言靈	- 14 -
禁忌	- 16 -
生贊・人柱	- 19 -
講演会講師の著作	- 28 -

絵馬



日本人にとってなじみ深い絵馬——

受験のときやお正月など、一度は願いを込めて小絵馬を書かれた方も多いのではないでしょうか。

絵馬は古くから人間の祈りを受け止めてきました。

大正時代に画家の描いた色鮮やかな画集や、絵馬について民俗学的に考察した資料をご覧ください。

1. 諸国絵馬集 1. / 西沢笛畠 編. (芸艸堂, 大正 7.) 【109-242】



西沢笛畠（1889-1965）は、大正から昭和の人形玩具の収集・研究家として知られる人物で、人形収集の大家で有名な実業家西沢仙湖の女婿です。日本画家として活躍し、柳田国男（やなぎた くにお）の「絵馬と馬」が掲載された雑誌『旅と伝説』（資料 No.6 参照）にも絵を寄せています。

（参考：日本大百科全書）

2. 諸国絵馬集 2. / 西沢笛畠 編. (芸艸堂, 大正 7.) 【109-242】



展示しているページには「博打禁止」を願った絵馬が描かれています。こうした自戒のための絵馬には、止めたいための（酒、たばこ、博打を表すサイコロなど）と錠が描かれているものが多く見られます。

3. 絵馬百種 / 谷口桃僊 臨画. (だるまや書店, 大正 6.) 【201-280】



各地の絵馬が色鮮やかに描き出されています。右から、龍、鯰（ふな）、兎、鱈（えい）。

4. 絵馬 / 岩井宏実 著. (法政大学出版会, 1974.) 【GD33-116】

絵馬の起源から説き起こし現代にいたるまでの歴史を解説した第一章、小絵馬について分類別に整理した第二章、大絵馬をテーマごとに説明した第三章から成り、絵馬のことが網羅された一冊です。絵馬の起源として、馬形・神馬を献上できないものが、絵にして献上したのが始まり、との説が紹介され、著者はこの説は素直に考えて納得できるとしています。

5. 絵馬秘史 / 岩井宏実 編. (日本放送出版協会, 1979.3.)

【GD33-288】

本書は、NHK 教育テレビが昭和 53 年に放映した『絵馬秘史』の内容をまとめたものです。充実の内容の中には、数学の絵馬である算額についても記されています。17 世紀の後半には奉納が一般化した算額ですが、時と共に祈願や喜びのためだけではなく、研究発表の色合いを濃くしていきました。數学者同士、算額上で意見や解答のやりとりをした記録もあるようです。

6. 小絵馬 : 佐藤健一郎, 田村善次郎 文 ; 若尾和正 写真. (淡交社, 1978.12.) 【GD33-279】

日本古代の神話も射程に入れながら、絵馬について解説しています。柳田国男が「絵馬と馬（※）」で言及した文言を始め (p.125)、今回展示している岩井宏実の研究なども参照されています。絵馬が民俗学者にとって注目の主題であったことも伺えます。

(※ 「絵馬と馬」 柳田国男『旅と伝説』 1930 年 10 月号

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1483501/41>)

7. 宮本常一とあるいた昭和の日本. 田村善次郎, 宮本千晴 監修.

(農山漁村文化協会, 2012.8.) 【GD1-J287】

宮本常一 (1907- 1981) とあるいた…と題された本書には、日本各地の民俗が写真と文で収められており、「小絵馬の絵」として、絵馬についても一章割かれています。絵馬に描かれた動物や、海外の絵馬のそっくりさんなど、写真だけでなく、その解説も興味深いものです。

8. 大絵馬ものがたり. 1 (稻作の四季)須藤功 著. (農山漁村文化協会, 2009.9.) 【Y2-N09-J221】

絵馬というと、合格祈願などで個人の願いを託す手のひら大の絵馬を想像しますが、大絵馬と言って大きく描かれ神社の拝殿や絵馬堂、寺院の内陣などに永久に掲げられるものもあります。本シリーズは各地の大絵馬の写真を収録・解説したもので、1巻は「稻作の四季」と題され、五穀豊穣を願う絵馬を紹介しています。

9. 大絵馬ものがたり. 2 (諸職の技). 須藤功 著. (農山漁村文化協会, 2009.11.) 【Y2-N10-J2】

大絵馬にはさまざまな働く人の姿が描かれています。昔から仕事の中には死を意識するようなものもありました。たとえば、荒れる波に船を出す漁師や船頭——船絵馬は大絵馬のなかで飛び抜けてたくさんあるそうです。また、明治以前の捕鯨は、人と鯨が互いの生死をかけて闘う危険なものでした。本書 p.78 に紹介されている大絵馬は、古来の網取法による捕鯨図で、一般公開はされていない貴重な一枚とのことです。

10. 大絵馬ものがたり. 3 (祈りの心) 須藤功 著. (農山漁村文化協会, 2009.12.) 【Y2-N10-J19】

絵馬に込められた祈りは、多種多様でそのどれもが切なるものです。家族の健康や長寿、商売繁昌といったものだけでなく、いなくなってしまった人を供養する祈りの絵馬もあります。本巻では、祈りの心を描いた大絵馬が紹介されています。

11. 大絵馬ものがたり. 4 (祭日の情景) 須藤功 著. (農山漁村文化協会, 2010.3.) 【Y2-N10-J152】

第4巻「祭日の情景」は、全国の祭礼図、芸能図、年中行事図、神楽図、念佛図、能楽図で構成されています。日常を離れて楽しむ祭りや芸能は大絵馬の中でも華やかに描かれています。

- 12. 大絵馬ものがたり. 5 (昔話と伝説の人びと) 須藤功 著.
（農山漁村文化協会, 2010.5.) 【Y2-N10-J205】**
- シリーズ最終巻は、「昔話と伝説の人びと」と題されています。金太郎や牛若（源義経）、三国志の登場人物など、我々の心を躍らせるヒーローたちは大絵馬の中でも人気者のです。生き生きと描かれた彼らの姿に込められた願いはどのようなものだったのでしょうか。
- 13. 俗信の世界 / 宮田登 著. (吉川弘文館, 2006.5.) 【GD38-H69】**
- 本書では、絵馬のみならず全国各地・古代から現代までの祈りと俗信について語られています。「宮田登日本を語る」というシリーズ（全 16 卷）で刊行されているうちの一冊で、著者の民俗学的知見の広さを感じます。関西館には、シリーズの他の巻も揃っています。
- 14. 神話と民俗のかたち / 井本英一 著. (東洋書林, 2007.12.)
【GD1-J33】**
- 第 3 部「かたちをめぐる話」のなかに「線刻彩画礫と絵馬」という章があります。「絵馬」というと我々が想像するのは木板に願い事を書いて神社に奉納するのですが、本書では、世界を射程に入れて絵馬というかたちの文化を考察しています。また、絵馬の章以外でも、興味深い民俗学的研究を読むことができます。

お守り・お札



あなたが大事にしているお守りはありますか？

太古から世界中の人々が、動物、身体の部位、鉱物、植物などのかたちあるものに祈りをこめてお守りを身に着けてきました。

地方色豊かなお守り・魔除けを紹介した資料を集めました。

15. 納札史 / フレデリック・スターク 著；藤里好古 訳. (藤里好古, 大正 10.) 【186-322】

館内公開／
図書館送信資料

ある国の文化の民俗学的探求は、時にその国の人間ではなく外国人によって行われることがあります。外から見た時の最初の驚きこそが、研究の原動力になるのでしょうか。本書の著者フレデリック・スターク（1858-1933）はアメリカの人類学者ですが、幅広く日本研究を行いました。特にお札に関してはその知識と熱意が並大抵でなく、日本人から「お札博士」と呼ばれていたそうです。

16. 小泉八雲全集. 第1巻 (明石書店, 2005.12)

【938-cH43k-m】 館内限定公開



小泉八雲（ラフカディオ・ハーン(1850-1904)）もまた、日本の文化に深くかかわった有名な人物の一人です。松江中学で教鞭をとっていたこともある彼は、お札に興味を持っていたようです。「松江—神々の國の首都」という文章の中で「というのは、その白い紙は神道の護符、いわゆるお札で、余は、その熱心な蒐集家なのだから。」と述べています。

17. 小泉八雲 / 田部隆次 著. (早稲田大学出版部, 大正 3.) 【348-151】

インターネット公開

1889年頃の小泉八雲の肖像。右上の写真参照。

**18. 「お札」にみる日本仏教 ベルナール・フランク [著]；仮蘭久淳子 訳。
（藤原書店, 2006.9.）【HM85-H75】**

本書は、フランス人ベルナール・フランクが日本全国 40 県以上を回り蒐集した仏教のお札コレクションの紹介です。彼は先人ラフカディオ・ハーンの著作に「一目ぼれ」し、その人生を日本研究に捧げました。フランクのコレクションは、パリのコレージュ・ド・フランスに保管されています。

19. 日本のお守り：畠野栄三 監修。(池田書店, 2011.5.)【GD33-J306】
日本各地の動物などをかたどったかわいらしいお守りが多く掲載されています。それらは、愛らしい一方でどことなく懐かしく、また切なさを感じさせる表情が印象的です。ご利益別のお守り紹介もあります。

**20. 魔よけ百科：かたちの謎を解く：岡田保造 著. (丸善, 2007.7.)
【G189-H47】**

五芒星や×といった「かたち」は古くからいろいろな道具や建築に取り込まれてきました。筆者は金沢城などに彫られた五芒星を見て、こうした「かたち」に興味をもったようです。自ら各地に足を運んで集めた実例の数々を概観することができます。

**21. 魔よけ百科：呪物のかたちと謎. 世界編 岡田保造 著. (丸善,
2008.10.) 【G189-J13】**

「魔よけ百科：かたちの謎を解く」の著者が、国外にも魔除けのかたちを見出しました。こちらは世界編と題され、アジア・欧米の事例も収録されています。

22. 道教秘伝靈符の呪法 大宮司朗 著. (学習研究社, 2002.7.)

【HR132-H1】

本書では、中国道教の靈符について、その歴史にはじまり、多くの種類の実例が紹介されています。本文によると、靈符とは「もともと太上老君など古来の神仙が、天地自然のさまざまな姿を写しとったもの」とのこと、そこに描かれるかたち一つ一つには宇宙の生成や変化流転の相をあらわす深遠な意味があるようです。

23. 図説西洋護符大全 : L.クリス=レッテンベック, L.ハンスマント著 ; 津山拓也 訳. (八坂書房, 2014.5.) 【G189-L22】

日本と異なる文化的・宗教的背景を持つ西洋でも、魔除けは古くから人間とともにありました。人間の寿命を超えて存在する鉱物、厳しい生存競争を生き抜く生命力豊かな植物や動物、そして人間自身の形象までも魔除けのかたちとなつたのです。

24. ソロモン王の鍵 : 青狼団 編著. (二見書房, 1991.12.)

【SB391-E274】

ヨーロッパでは、精霊を呼び、自らの願いを叶えようとする魔術のハウツー本——グリモワール(魔術奥義書)が古代からしたためられてきました。本書はグリモワールである「ソロモン王の鍵」を現代に読みがえらせる書物です。

25. 世界お守り・魔よけ文化図鑑 : シーラ・ペイン 著 ; 福井正子 訳. (柊風舎, 2006.10.) 【G189-H45】

実際の魔除けだけでなく、それを身に着けた人間にまつわるエピソードが紹介されています。世界各地のものが紹介されているので、ページをめくっているだけで世界魔除け探索の旅に出たような気分になります。訳者が本書を通じて強く感じたという「人間は本当に怖がりだな」という言葉も印象的です。

26. 世界お守り大全 : デズモンド・モ里斯 著 ; 鏡リュウジ 監訳.

(東洋書林, 2001.9.) 【G189-G110】

タイトルどおり世界のお守りを紹介する本書は、動物や身体の部位をかたどったもの、鉱物や植物などバラエティ豊かな内容です。エジプトのスカラベ(フンコロガシ)やアイルランドのシャムロック(三つ葉のクローバー)など、地域色が豊かな魔除けにも注目です。

27. お守り動物園 / INAX ギャラリー企画委員会 企画. (INAX 出版,

1996.12.) 【GD33-G148】

虎、獅子、猿、犬、象、狐、馬、狼、熊…世界各地で動物はお守りになってきました。本書はお守り動物園——時に愛らしく、時に力強い動物たちを、我々人間が生活のお守りにしてきたことが改めてわかります。トナカイや鱈(ノコギリエイの鋭い口先!)など、日本では見慣れないものもあって新鮮です。

人形



日本には様々な人形が見られますが、呪術や信仰に関係するものも少なくありません。

今となってはこれらの正確な用途を知ることは困難ですが、さかのぼれば土偶や埴輪があります。祓いに関係するひとがたや天児（あまがつ）・這子（ほうこ）は立ち雛を生み出し、江戸時代には多種多様なひな人形に発展します。また、豊穣を祈願して作られはじめた伏見人形は、全国各地の土人形に影響を与え、地方色豊かな郷土人形がされました。

28. 日本の美術（通号 361）（ぎょうせい, 1996.）【Z11-195】

館内限定公開

29. 日本の美術（通号 360）（ぎょうせい, 1996.）【Z11-195】

館内限定公開

30. 伏見人形 /有坂与太郎 著.（東京：毎日新聞社, 昭和 4.）【590-136】

館内公開／
図書館送信資料

31. 起上小法師画集.第 1-12 集 /川崎巨泉 画；木戸忠太郎 編.

（京都：木戸忠太郎, 大正 13-14.）【414-20】インターネット公開

堺市の郷土玩具画家である川崎巨泉による起上小法師（おきあがりこぼし）の画集です。だるま以外にも、キューピーや童子、中国の翁、桃をもった猿などがユーモラスに描かれています。

32. おもちゃ箱：巨泉漫筆. 上（大阪：巨泉漫筆おもちゃ箱頒布会，大正 13.）【419-163】[インターネット公開](#)
33. おもちゃ箱：巨泉漫筆. 下（大阪：巨泉漫筆おもちゃ箱頒布会，大正 13.）【419-163】[インターネット公開](#)
34. ひとがた・かたしろ・人形.（[栗東町（滋賀県）]：栗東歴史民俗博物館, 1999.10.）【KB16-G723】
人形の起源は、身についた穢れを払うための”ひとがた”であるといわれています。本書ではまじないの道具としてのひとがたから人形に至る系譜を紹介しています。
35. 草戸千軒町遺跡出土の木製形代：人形・舟形・刀形・陽物・鳥形・鬼形・臼形・斎串 /広島県立歴史博物館 編.（福山：広島県立歴史博物館, 2009.3.）【GC223-J58】
36. ひとがた・人形そして人間研究会報告書.2006-2008.（京都：ひとがた・人形そして人間研究会, 2009.10.）【KB293-J17】
37. 人形・ひとがた：祈りから遊びまで：平成 23 年度徳島県立博物館企画展図録 /（徳島：徳島県立博物館, 2011.4.）【GD33-J303】
38. ひいな：歴史の中の人形.（龍野：龍野市立歴史文化資料館, 2004.2.）【KB16-H292】
39. 日本の雛人形：決定版：江戸・明治の雛と道具六〇選 /是澤博昭 著.（京都：淡交社, 2013.2.）【KB16-L58】
40. 雛人形と武者人形：山形に伝わる節句の飾り /山寺芭蕉記念館 編.（山形：山寺芭蕉記念館, 2002.3.）【KB16-H231】

41. 七夕と人形 /松本市立博物館 編. (松本 : 郷土出版社, 2005.7.)

【GD28-H48】

七夕は禊祓（みそぎはらえ）、虫送り、収穫感謝祭などの習俗と関係があります。地域によっては七夕に人形を飾ることもあり、長野県の松本地方では、多くの種類の七夕人形が見られます。

42. 人形 : 日本と世界の人形のすべて. 第 4 卷 (京都 : 京都書院, 1986.2.) 【KB293-83】

43. 伏見人形とその系譜 : 奥村寛純コレクション展 : 春季特別展図録 / 高槻市教育委員会, 高槻市立しろあと歴史館 編. ([高槻] : 高槻市教育委員会, 2007.3.) 【Y121-H6692】

伏見人形は日本の土人形の源流と言われています。豊作を願う稻荷信仰と結びつき、縁起物として広まりました。

44. 全国郷土人形図鑑 /足立孔 著. (東京 : 日本国書センター, 2012.2.) 【KB16-J994】

45. 日本の古玩だるま. (藤枝 : 藤枝市郷土博物館, 2004.7.) 【KB297-H24】

戦前から昭和 30 年代にかけて、日本各地で作られただるまを紹介しています。だるまには非常に多様な形態があることがわかります。

46. みちのくの人形たち :三春・堤・花巻・相良 仙台市博物館特別展図録 /仙台市博物館 編. (仙台 : 仙台市博物館, 1996.4.) 【KB16-G195】

東北の人形づくりは江戸時代中期にはじまったと考えられています。民間信仰や年中行事に関する人形が多く作られています。

47. 十二支の郷土玩具 /中村浩訳 編著. (東京 : 日貿出版社, 2009.10.) 【KB16-J521】

48. 馬の郷土玩具 /藤枝市郷土博物館 編. (藤枝 : 藤枝市郷土博物館, 2002.3.) 【KB16-H104】
49. 猿の郷土玩具 /藤枝市郷土博物館 編. (藤枝 : 藤枝市郷土博物館, 2004.1.) 【KB16-H403】
50. 郷土玩具サルづくし : サル文化をたずねて /上島亮 著. (津 : 上島亮 ; 名古屋 : 丸善名古屋出版サービスセンター (製作), 2004.10.) 【KB297-H29】
51. 鶏の郷土玩具 :干支の人形シリーズ/酉年 /藤枝市郷土博物館 編. (藤枝 : 藤枝市郷土博物館, 2005.1.) 【KB16-H497】
52. 犬の郷土玩具 :干支の人形シリーズ戌年の主役たち /藤枝市郷土博物館 編. (藤枝 : 藤枝市郷土博物館, 2006.1.) 【KB16-H851】
53. 鳩笛 :笛玩具かたち・色・音のコレクション /藤枝市郷土博物館 編. (藤枝 : 藤枝市郷土博物館, 2003.3.) 【KD157-H6】
54. 日本の御人形 /池田萬助, 池田章子 著 ; 宮野正喜 写真. (京都 : 淡交社, 2000.12.) 【KB293-G101】

呪文・神託・言霊



呪文は呪術の手段の一つで、定型化された文言を唱えることによって呪力を行使しようとするものです。宗教儀式の際やまじないに使われるほか、ゲームや漫画などのポップカルチャーにも顔を出します。

神託とは神の意思を伺う行為で、世界各地で見られます。神に憑依された巫女の口を借りて伝えられるものや、神の意思を表すようなしるしを解釈するなどの方法があります。古代においては政治に大きな影響を持つこともありました。

55. 講座日本の伝承文学. 第 9 卷 / 福田晃 [ほか]編. (東京 : 三井書店, 2003.7.) 【KG736-H3】

日本の伝承文学の発生と展開について書かれた資料です。伝承文学の起源を神に憑依された巫覡の言葉 = 呪言に求め、トナエ、ウタ、コトワザをその展開として説明しています。

56. 國文學. 50 卷 4 号, 通号 722. (學燈社, 2005.) 【Z13-334】

57. 猫の民俗学 / 大木卓 著. (東京 : 田畠書店, 1979.9.) 【GD1-164】

本書は猫と人との関わりを概観したものです。この中には猫が家に居つくまじないや、いなくなつた猫が帰ってくるまじないが紹介されています。これらのおまじないは人に対して効果があるとされていたものとよく似ています。

58. 言霊とは何か : 古代日本人の信仰を読み解く / 佐佐木隆 著. (東京 : 中央公論新社, 2013.8.) 【KG16-L17】

59. 憑り来ることばと伝承 :託宣・神功皇后・地域 /吉田修作 著. (東京 : おうふう, 2008.5.) 【KG16-J10】

60. 日本の歴史.古代 8 (占い・託宣・聖所での夢). ([東京] : 朝日新聞社, 2003.5.) 【GB71-H50】

古代、人は夢や占いから神意を得られると考えました。本書では、神託によって重要な決定がなされた事例を引用して、古代から平安時代にかけての様々な占いとその歴史を紹介しています。

61. 占いと神託 /M.ローウェ, C.ブラッカー 編 ; 島田裕巳 他訳. (東京 : 海鳴社, 1984.7.) 【HR511-203】

62. ことばと文化の饗宴 :西洋古典の源流と芸術・思想・社会の視座 / 田中一嘉, 中村美智太郎 編著. (東京 : 風間書房, 2014.3.) 【KE152-L3】

禁忌



古くから人は神聖なものに対し犯しがたい感情を抱き、一方で不浄・不吉なものに対して忌避的な感情を抱きます。このような行動規範は日本語で禁忌、世界では広くタブーと呼ばれます。現在はタブーという言葉の方が一般的に使われるかもしれません。

タブーはポリネシア語の *tabu* を語源とし、世界中に広く見られる人類最古の不文律であると考えられています。

63. 汚穢と禁忌 /メアリ・ダグラス 著；塚本利明 訳. (東京：思潮社, 1995.2.) 【G187-E11】

“タブーとは秩序を犯すものである”として、タブーの聖性への畏怖と汚穢への禁忌の両面性を説明します。設定されたタブーを見ることによって、その社会の構造がわかること、また、秩序と無秩序の関係をさまざまな二項対立の考察に適用し、世界の宗教と哲学について深く理解することが出来ると説いています。

64. 肉食タブーの世界史 /フレデリック, J.シムーンズ [著] ; 山内昶 監訳 ; 香ノ木隆臣, 山内彰, 西川隆 訳. (東京 : 法政大学出版局, 2001.12.) 【G185-G134】

肉食の忌避は地域や文化によって大きく異なります。本書では、豚肉、牛肉、鶏肉など、それぞれの食肉ごとにみられる忌避を紹介・考察しています。

65. ミクロネシア人が鰐を禁忌する習俗の起源 /高山純 著. (東京 : 六一書房, 2009.3.) 【GJ91-J3】

66. 罪と贖罪の神話学 :シンポジウム論文集 : 2011 年 9 月-2012 年 1 月 /GRMC 責任編集 ; 篠田知和基 編. (千葉 : 樂卿書院, 2012.3.) 【HK71-J59】
67. 日本人の禁忌 :忌み言葉、鬼門、縁起かつぎ…人は何を恐れたのか / 新谷尚紀 監修. (東京 : 青春出版社, 2003.12.) 【GB82-H3】
68. 日本人の歴史. 第 11 卷 (禁忌と日本人) /樋口清之 著. (東京 : 講談社, 1982.12.) 【GB71-108】
69. 名前の禁忌習俗 /豊田国夫 [著]. (東京 : 講談社, 1988.10.) 【GB43-E40】
70. 迷信・ジンクスの謎 /グループ・こすも研究会 著. (東京 : 広済堂出版, 1989.8.) 【Y86-E265】
71. 禁忌習俗事典 :タブーの民俗学手帳 /柳田国男 著. (東京 : 河出書房新社, 2014.8.) 【GD38-L30】
忌みの事例を多く集めることで、忌みのもつ両義性—聖なるものを畏れ遠ざかることと不淨なるものを避けること—の根本にある考え方を明らかにしようという試みで本書は刊行されました。1938 年に出版されたものの改題で、今では忘れられた多くの習俗が集録されています。
72. 捜神後記 /陶潛 [撰] ; 先坊幸子, 森野繁夫 編. (東京 : 白帝社, 2008.3.) 【KK94-J1】
中国六朝時代の不思議な話が収められた物語集で、志怪小説集と呼ばれます。「白水素女」など、見るなのタブーに関する話が見受けられます。

73. ツルノオンガヘシ / 坪田讓治 文 ; 安泰 画. (中央出版協會,
1943.10.) [Y17-N01-914] 館内限定公開 →

74. 鶴の恩がえし 黒崎義介 作・畫. (日本画劇, 1952.6.) [YKG1-J63]
館内限定公開 →

75. つるのおんがえし : 松谷みよ子 文 ; 岩崎ちひろ 絵. (偕成社,
昭和 41.) [Y17-110-[5]] 館内限定公開 →

76. つるにようぼう / 神沢利子 文 ; 井口文秀 絵. (ポプラ社, 昭和 42.)
[Y17-114-[7]] 館内限定公開 →

77. にほんたんじょう /岸田衿子 文 ; 渡辺学 絵. (東京 : 岩崎書店,
昭和 42.) [Y17-263-[6]] 館内限定公開 →

78. みるなのくら /おざわとしお 再話 ; 赤羽末吉 画. (東京 : 福音館
書店, 1989.3.) [Y18-3939]

79. 雪女 :絵入り /鈴木富生 訳註. (東京 : 渡辺書房, 1952.9.)
[Y33-H762] 館内公開／図書館送信資料 →

80. ペローの青ひげ /シャルル・ペロー 文 ; エリック・バトゥー 絵 ;
池田香代子 訳. (東京 : 講談社, 2001.8.) [Y18-N01-349]

生贊・人柱



いよいよ私の名前を明かすときがやってきました。

この章の最後にお話しするつもりです。もうしばらくお付き合いください。

神々に捧げられた生贊、橋の堅牢ならんことを願って立てられた人柱…想像するだけで胸がつまります。本当にそんなことがあったのでしょうか？単なる伝説では？

しかし、記紀を始めとして我が国の古典にも様々な生贊・人柱の話が採られ、また各地にも伝わっています。大正 14 年には、皇居の二重櫓の下から大量の人骨が発見され、江戸城建設に際して人柱として埋められたのでは、と学者の間で論争になったりもしました。現代でも、これらの風習や伝説のもつ意味について、色々な視点で語られています。

81. 古事記 / 佐野保太郎 編. (赤城正蔵, 大正 3.) 【特 100-872】

インターネット公開 

古事記には、高天原を追い出された須佐之男命（すさのおのみこと）が出雲の国に降臨して、娘を生贊として喰らうという八俣遠呂智（やまたのおろち）を退治した有名な話があります。救われた櫛名田比売（くしなだひめ）は、親と須佐之男との約束にしたがい、彼の妻となります。

82. 日本書紀. 武田祐吉 校註. 第3. (朝日新聞社, 1954.)

[210.3-N688n-T] 館内限定公開 

仁徳天皇の世 11 年、冬 10 月に、強頸（こわくび）と茨田連衫子（うまらだのむらじころものこ）という 2 人のことが出てきます。現在の淀川に堤を築こうとしたが何度も壊れるので困っていたら、天皇の夢に 2 人を人柱として捧げよとお告げがあった。覚めて 2 人を捕え、そのとおりにしようとしたところ、強頸は川に沈んで人柱となつたが、衫子は知恵をはたらかせて…

83. 今昔物語. 長野嘗一 校註. 第5. (朝日新聞社, 1955.)

[913.37-k-N] 館内公開／図書館送信資料 

今昔物語からは生贊の話を 2 つ。何れも猿神に捧げられる生贊を止めさせたという内容です。1 つは美作国（岡山県）で生贊に差し出されようとしていた娘を、旅の東人が犬と一緒にになって猿神を退治して救う話です。

84. 今昔物語. 長野嘗一 校註. 第5. (朝日新聞社, 1955.)

[913.37-k-N] 館内公開／図書館送信資料 

もう 1 つは飛騨国（岐阜県）でやはり旅の僧が、危うく生贊にされそうになるところから、仏法の力でこの風習を止めさせるところまで、人情味たっぷりに語られています。

85. 神道集 / [安居院] [作] ; 貴志正造 訳. (平凡社, 1967.)

[175-Sy957s-Kh] 館内限定公開 

14 世紀後半の成立と推定されているこの説話集には、在地の信仰や民俗が反映されています。ここに、有名な長柄橋の人柱の話が、齊明天皇（594-661）の頃のこととして採られています。

86. 大日本名所図会. 大日本名所図会刊行会 編. 第 1 輯第 5 編.

(大日本名所図会刊行会, 大正 8.) 【379-3】 インターネット公開 

寛政年刊の成立と思しき本書にも長柄橋跡のくだりで人柱のことが記されていますが、ここではその時代を嵯峨天皇の世(809-823)としています。

87. 芸術新潮. 47 卷 3 号, 通号 555. (新潮社, 1996.) 【Z11-97】

館内限定公開 

88. 佛教史学. 1 卷 1 号-1 卷 12 号. (森江書店, 1911.) 【Z9-544】

日本民俗学の創始者と言われる柳田国男が、人を生贊にする風習が実際にあったとする宗教学者加藤玄智(げんち)に対して本誌第 1 編第 8 号「掛神の信仰に就て」で反論しています。元の論文「宗教学と佛教史」(同第 2、第 3 号)で、佛教に醇化されて残酷な生贊の風習が止んだとする加藤に対し、柳田は、「人の肉や血は何れの時代の思想にても我国では決して御馳走には非ず」と反対しています。これに応じ、加藤は同第 9、第 10 号で柳田の論を難じていますが、柳田はこれに再反論せず、この論争は柳田の沈黙で終わりました。

89. 日本伝説集 / 高木敏雄 著. (郷土研究社, 1913.) 【388.1-Ta196n】

館内公開／
図書館送信資料 

著者の高木敏雄は、日本初の民俗学専門誌である次の「郷土研究」を柳田国男とともに刊行し、後の研究に大きな功績を残しました。人柱にまつわる日本各地の伝説が本書には記されています。

90. 郷土研究. 第 1 卷第 7 号-第 10 号.(郷土研究社, 1913)【雑 19-29】

91. 民族と歴史. 第7巻第4号～第5号. (日本学術普及会, 1919.)

【雑19-26】

喜田貞吉の「人身御供」が第4号、第5号に載っています。喜田は、仏教の教えが届かない山奥に住む山人に対し、村人が物資交換とともに、時に婦女を差し出していた風習が、生贊にまつわる伝説に深く関係していると説いています。

92. 隅侯閑話 / 大隈重信 [著] ; 池田林儀 編. (報知新聞社出版部, 大正11.) 【394-175】 インターネット公開



資料92より大隈夫妻

93. 中央史壇. 第11巻第2号. (国史講習会, 1925.)

【雑19-57】

大正14年5月、皇居の二重櫓の下から大量の人骨が発掘された事件を受けて、第11巻第2号は「生類犠牲研究」の特集を全号にわたって組んでいます。様々な論の載っている中で、当館所蔵のこの資料から中山太郎の論文(p.10-)と駒込林二のもの(p.65-)が切り取られてしまっています。そして、駒込林二とは中山太郎のペンネームです。

94. 南方熊楠全集. 渋沢敬三 編. 第4巻. (乾元社, 1952.)

【081.8-M485m-S】 館内公開 図書館送信資料

紀伊の国が生んだ傑人、南方熊楠にも人柱をめぐる論考があります。「人柱の話」と題されたその論考で南方は、人柱に関する東西の伝説を次から次へと紹介し、後で出てくる柳田国男(資料No.99)とは対照的に、人柱が歴史的な事実であったと力説しています。

95. 人柱 / 山川均 著. (上西書店, 大正15.) 【特113-844】 インターネット公開

96. 異説日本史. 雄山閣編輯局 編. 第 11 卷. (雄山閣, 1931-1933.)

【210.08-Y999i】  

97. 変態風俗の研究 / 田中祐吉 著. (大阪屋号書店, 昭和 2.) 【565-218】

インターネット公開 

98. 日本伝説研究. 藤沢衛彦 著. 第 6 卷. (六文館, 1931-1932.)

【388.1-H956n-(3)】  

99. 妹の力 / 柳田国男 著. (創元社, 昭和 17.) 【388.1-Y53-13 イウ】

インターネット公開 

柳田国男が人柱伝説について論じた「松王健兒（まつおうこんでい）の物語」と「人柱と松浦佐用媛（さよひめ）」が収められています。柳田は、これらの伝説が史実であったか否かではなく、その背後にある常民の思想や習俗を探ることが歴史家として大切だと述べています。そして、各地の伝説で人柱として立つ者の名に多い「松王」が、神に仕えた家の者を指していることや、伝説には八幡信仰が深く関与していることなどを説いています。

100. 島. 1巻 1号. (「島」発行所, 昭和 8.) 【雑 23-104】

101. 遠野物語 / 柳田国男 著. (郷土研究社, 昭和 10.) 【327-268 イ】

館内公開/
図書館送信資料 

柳田の代表作の 1 つ「遠野物語」にも人柱のことが記されています。松崎村にある母也堂（ぼなりどう）という祠の由縁として、人柱の話「巫女と智」がそれです。一人娘に智（むこ）を取ったが、智が気に入らない義母である巫女は、智を人柱に仕立て上げて亡き者にしようと占いを立てた。しかし結局、愛娘までも智と一緒に人柱にされてしまった、という話です。

102. 自治と公民・人柱伝説の意義. (下谷区町会聯合会, 昭和 4.)
【特 249-450】[インターネット公開](#)

103. 史学論文集 (京都帝国大学文学部, 昭和 16.) 【204-Ky6 ウ】
[館内公開／図書館送信資料](#)

104. 日本の昔話と伝説 : 柳田国男 著. (河出書房新社, 2014.9.)
【KG745-L48】

105. 日本巫女史 / 中山太郎 著. (国書刊行会, 2012.6.) 【GD5-J40】

本書は「日本巫女史」(大岡山書店刊、昭和 5 年) の復刊です。柳田国男の弟子として在野で民俗研究に徹した中山が巫女について論じた渾身の書です。ほとんど中山を褒めることのなかった師柳田も、ただこの書には賛辞を呈したと、本書の解説に記されています。人身御供に捧げられた巫女のことなどが書かれています。



柳田国男の渡欧を記念して折口信夫邸に集合した際の写真。(大正 10 年 3 月)

柳田は籐椅子にかけた 3 人のうち向かって右。ネフスキーをはさんで左は金田一京助。後列左端が折口信夫で、「日本巫女史」の著者、中山は後列左から 3 番目の口ひげを生やした男。(「日本巫女史」(大岡山書店、昭和 5) より)

106. 神話と国家 : 西郷信綱 著 (平凡社, 1977.6.) 【HK73-57】

ここからは、現代の生贊や人柱をめぐる論考を紹介します。まず本書は「イケニヘ」という語の意味を問題にします。生きたままの動物・人を神に捧げることではなく、活け飼いにしていた動物・人を殺して神に捧げるのがその本義だとして、次いで生贊の目的を共同体の蘇生にあると論じています。

107. 森のバロック / 中沢新一 著. (せりか書房, 1992.10.)

【GK83-E70】

宗教学者中沢新一が、南方熊楠という「法外な生命体の、もっとも内容に潜む思想のマトリックスに、たどりつこうとし」て著した書です。

「南方民俗学入門」という章で南方「人柱の話」(資料 No.94) の読みが披露されています。

108. 供犠の深層へ / 赤坂憲雄 編著.(新曜社, 1992.2.)**【GD1-E136】**

109. 中世的世界から近世的世界へ : 笹本正治 著.(岩田書院, 1993.6.)

【GB211-E66】

110. 人身御供論 : 大塚英志 著. (新曜社, 1994.3.) **【KE178-E38】**

通過儀礼が失われた現代において人は個人としてなお成熟することができるのでしょうか？犠牲を主題とする人身御供（生贊）の物語はそこに、何らかの役割を果たすことができるのでしょうか？

111. 祭祀と供犠 : 中村生雄 著. (法藏館, 2001.3.) **【HK25-G72】**

112. 人身御供祭祀論 / 六車由実 [著] ([六車由実], [2002])

【UT51-2002-F326】

2002年、大阪大学に提出された博士論文です。著者はこれに加筆して「神、人を喰う：人身御供の民俗学」を著し、第25回サントリー学芸賞（思想・歴史部門）を受賞しました。

113. 狩猟と供犠の文化誌 / 中村生雄, 三浦佑之, 赤坂憲雄 編.

(森話社, 2007.5.) **【G185-H98】**

都市伝説

114. 都市と都市化 / 有末賢, 内田忠賢, 倉石忠彦, 小林忠雄 編.

(岩田書院, 2011.3.) 【EC122-J91】

都市に伝わる出所不明の噂話。それらにも人々のおそれを見ることがあります。太平洋戦争中に広まった噂「らっきょうを食べると弾に当たらない」というものが本書で紹介されています。被弾の恐怖は切実で極大だったことでしょう。現代には通じない話です。私たちはいま、何をおそれるべきでしょうか…？

115. 野村純一著作集. 野村純一 著 ; 野村純一著作集編集委員会 編集.

(清文堂出版, 2012.5.) 【KG745-J113】



ずいぶんと気をもたせてしまいまいしたが、私の名前を申し述べます。

周りからは「イケニエちゃん」と呼ばれています。

「不謹慎だ」「縁起でもない」と、どうかお怒りになりませんよう。

私は元々、と言いますか今でも犬張子ですから、決して生贊ではありません。犬張子と言うのはご存じのとおり安産や健やかな子の成長を祈って贈られるものです。私たち犬は多産・安産の象徴と考えられていますから。

それを神々に捧げる生贊と呼ぶなんて怪しからん、と最初は私も思いました。危うく噛みつくところでした。

ところがこの展示資料を観てみると、生贊というのは決して疎ましい存在ではなかったことが分かったのです。それどころか、人であれ、それ以外の動物であれ、生贊になるものに対する畏怖の念が、そこにはよく見てとれます。生贊がもっている靈的な力を持む気持ち、それは犬張子に込められた祈りに相通じているのではないか、そう思ったとき、怒りは失せて、何だかとても清々しい気持ちさえしたのです。

ですから私はこの愛称をまんざらでもない、と受けとめています。呼ばれたときには微笑みをもって応えています。

長い時間、お付き合いいただきありがとうございました。

この展示が終わっても、また何処かでお会いできますように。

講演会講師の著作

3月5日（土）に行われる講演会「おそれと祈り—魔除け・厄除けを中心に—」で講師を務める関沢まゆみ先生（国立歴史民俗博物館教授）の著作から、関西館が所蔵しているものを選んでご紹介します。

116. 宮座と老人の民俗 / 関沢まゆみ 著. (吉川弘文館, 2000.2.)
【GD19-G17】
117. 隠居と定年 : 関沢まゆみ 著. (臨川書店, 2003.3.)【GD19-H4】
118. 宮座と墓制の歴史民俗 / 関沢まゆみ 著. (吉川弘文館, 2005.2.)
【GD19-H6】
119. 現代「女の一生」: 関沢まゆみ 著. (日本放送出版協会, 2008.6)
【GD1-J39】
120. 民俗小事典死と葬送 / 新谷尚紀, 関沢まゆみ 編. (吉川弘文館,
2005.12.) 【GB8-H50】
121. 国立歴史民俗博物館三十年史 : 国立歴史民俗博物館三十年史編纂
委員会 編. (人間文化研究機構国立歴史民俗博物館, 2014.3.)
【GB18-L34】



国立国会図書館 第19回小展示
おそれと祈りーまじないのかたちー

展示資料解説

会期：2016年2月18日（木）～3月15日（火）
会場：国立国会図書館関西館 地下1階総合閲覧室
編集・発行 国立国会図書館関西館 展示小委員会

※画像

表紙イラスト、透かしイラスト：『おもちや箱：巨泉漫筆』（川崎巨泉 編、大正13年）
裏表紙イラスト：（牛）同上、（だるまと人形）『起上小法師画集.第1-12集』（川崎巨泉 画；
木戸忠太郎 編、大正13-14年）